

# 乙女高原が好き！ 2102 号

## 乙女高原はさわやかな初夏です

今年も乙女高原は新緑の季節から、初夏へと向かっています。サクラスミレなどのスミレ類からレンゲツツジへ、そしてアヤメへと花々も次々に咲いて、夏の花の季節になろうとしています。マルハナバチなどの昆虫や鳥たちも活発に活動を始めています。新型コロナウィルス禍はまだまだ予断を許さない状況ですが、高原を訪れる人も増え始め、ファンクラブの活動も感染に気をつけながら、予定した活動を行っています。

まだたくさんの人に来てくださいとはいにくい状況ですが、家族で、少人数で乙女高原の自然の中でリフレッシュしていただきたいです。下界は真夏日の日もふえてきて暑いですが、乙女高原はとてもさわやかですよ。



## 雨で延期、でも勝手に遊歩道づくり

5月16日 記事：植原 彰

天候が不安定だったので、予定通り5時起きで乙女高原に向かいました。途中、パラッと車のフロントガラスに小さな雨粒が付きまして。まあ、大丈夫だろうと甘く見ていましたが、乙女高原に着くころには、普通の雨になっていました。共催団体である市の藤原さんと県の黒川さんに連絡し、協議。とりあえず30分待って、決断することにしました。コーヒーを入れて、パンを食べながら待ちました。30分待っても雨の状況は変わらないし、スマホで天気予報を見ても、芳しくありません。仕方なく3人で延期の判断をし、いろいろなところに延期連絡をしました。

さて、延期を決めたとはいえ、参加者が来ないとは限りません。集合時刻である9時半まではここにいなければなりません。「ならば、少しでも作業を進めるか」と、腰を上げました。

雨具を着て、長靴をはいて、作業用手袋をはめて、倉庫に行きました。中からかけや(ハンマー)を持ち出し、草原のコースの杭の一つずつ点検し、グラグラするものは打ち直しました。草原のコースを登って行き、森のコースを下ってきました。この間のすべての杭を点検しました。結構な数でしたよ。次に、ロッジの玄関から新しい杭を持ち出し、古くなってしまった杭と交換し、かけやで打ち込みました。

今度は、倉庫から「草原のコース」用の長いロープを持ち出し、遊歩道に沿って、延ばして行きました。ロープはきれいに巻かれていたのですが、なにぶん長くて(=重くて)うまく延ばすことができず、途中でからまってしまいました。こういう状況を甲州弁で「クデ」といいます。「ヒボ(紐)がクデになった」わけです。仕方がないので、1か所だけ切らせてもらいました。長く延ばしたら、端からロープを杭にしばって行きました。「とっくりむすび」という結び方です。

「やっぱり一人でやるのは大変だなあ・・・せめて、ファンクラブのスタッフのみんなには『雨でも作業に来ませんか??』と呼びかければよかったなあ」と後悔しました。雨も朝以上にはひどくならず、時々、止むようになっていました。それに、雨とはいえ、「雨に濡れて重くなったロープを回収する」わけではなく「乾いたロープを湿った杭に結び付けていく」という作業なので、雨でもあまり苦にならなかったのです。

途中、1台の車がロッジの庭に駐車し、中から出てきた3人がこちらに向かって来るのが見えました。小学生のころ、乙女高原の「常連」だったななちゃんとそのお母さん、それとななちゃんの友達の3人でした。「久しぶりに乙女高原に行こうと思って・・・。降水確率60パーセントでしたが、ま、ウエハラさんならいると思って・・・」とのことでした。大当たりです。

まだしばってないロープは半分以上あったので、さっそく頼もうと思いましたが、3人がちゃんととっくり結びできるか心配です。ななみちゃんが「ちゃんと覚えてますよう」というので、テストさせてもらうことにしました。そしたら、すんなり結んでしまうではありませんか。「すごいなあ」と心底感心し、仕



事を預けることにしました。

草原のコースは3人に任せることにして、ロッジに戻って杭やロープを車に積み込み、下の駐車場に向かいました。そして、谷地坊主方面の遊歩道の杭の点検や交換、そして、ロープを延ばし、ロープ張りの準備を始めました。草原のコースのロープ張りを終えた3人が来てくれたので、協力してもらいながら、ロープを張り終えました。結局、仕事が終わったのは10時半すぎ。中止だったのに4時間も働いてしまいました。

作業後、お茶にしました。ちょうど雨が止んだので、ロッジ前のテーブルとベンチに座り、食べたり、飲んだり。ななちゃんが作ってくれた卵のサンドイッチ、とてもおいしかったです。お茶をしていたら、ちょうど井上さんが乙女高原に到着したので、一緒にお茶を飲みました。お茶のあとは、自然観察会。森のコースに大きな花のシロバナエンレイソウが咲いていて、とてもきれいでした。たくさんの種類のスマイレの花にも出会えました。・・・ということで、この日の遊歩道づくりは中止。来てくださった方と「勝手に遊歩道づくり」を敢行しましたが、全体の半分もできませんでした。雨の中、かけつけてくださった皆さん、ありがとうございました。

## 1週間後…第22回遊歩道づくり

5月23日 記事:植原 彰

このところ、山梨は梅雨のような天気。5月中下旬にこの気候は反則でしょう…と不満たらたら。というのも、先週の遊歩道づくりが雨で延期になってしまい、今日も雨だったらどうしようと思っていたからです。

ふたを開けてみたら、この日は絶好のボランティア日和。よかったです、いい天気です。おかげさまで、エゾハルゼミの大合唱をBGMに作業がはかどりました。

この日はとにかく「来た人から作業を始める」ということだったので、受付やロープの縛り方練習場の準備をしたら、作業に入りました。市(観光課)の担当の方々も県(峡東林務環境事務所・県有林課)の担当の方々も勢ぞろいしてくださいました。ロータリークラブの皆さんも来てくださいました。親子連れも何組か。おかげさまで、とてもにぎやかになりました。結局、総勢35人でした。

作業は、まず、杭がグラグラしていないか確認し、グラグラしていたら「かけや」で打ち直し、交換が必要だったら、新しい杭に変えて、打ち込みます。そしたら、ロープを延ばして、端から杭に縛り付けていきます。杭に穴を開けてロープを通すとかではなく、単純に杭に縛り付けるのが乙女流。「とっくり結び」という結び方です。これだと半年たっても、ロープがゆるむことはありません。ロープや杭を運ぶのが結構めんどくさいです…というか、いちいちロッジまで取りに行かなければならないので、その往復、結構歩くんですよ。本当にご苦労様でした。



ある程度ロープ張りが終わったら、ロープに植物の解説カードや 現在地入り地図、「虫や花を採らないでね」看板、「ロープの中に入らないでね」看板を付けました。看板といっても、パソコンでプリントアウトしたものをラミネートし、パンチ穴を開けた手作り品です。これを小さな結束バンドで付けていきます。一人でやっていたら、「手伝いましょうか」と声をかけてくださる方がいたので、本当に助かりました。途中から、子どもたちも手伝ってくれたので、ますます助かりました。一昨年くらいまでは、みんなでやるロープ張りの作業が終わった後、「残り勉強」みたいで、一人で付けてまわっていたので、本当にいい時代になりました(笑)

みんなの作業が終わったので「終わりの会」をやって、きりをつけました。市の角田課長の司会で、ファンクラブ角田代表世話人がお礼のあいさつをし、三枝代表世話人が諸連絡を行い、今年の遊歩道づくりが無事、終了しました。皆さんのおかげで、草原の中に遊歩道が張り巡らされ、草原の植物たちを守りながら、多くの方に自然を楽しんでもらえるようになりました。

さて、皆さんが作業しているその間、雨宮さんは車をロッジの玄関前に付けていたもので、?とと思っていましたが、分かりました。なんと、雨宮さんはボロボロになってきた百葉箱の屋根の新しいのを作ってきてくださり、交換しようというのです!! 車から屋根を下ろし、古い屋根を下ろして交換。金具で取り付け、白いペンキを塗って…。10年にも渡って乙女高原の1時間おきの気温が計れているのも雨宮さんのおかげです。おかげさまで今後もしばらくは大丈夫そうです。



## ●自然観察報告●

### ヤマアカガエル産卵調査…さてカエルは…？

4月3日 記事:渡辺和男

この日はヤマアカガエルの産卵調査です。集合場所の道の駅花かげの郷まきおかに集合したのは7人でした。出発前に調査地点を確認し峠口経由で乙女高原へ向かいました。

産卵調査地点手前の標高1020m地点で自然観察をすることにしました。山の斜面ではすでにヒナスミレが咲いていました。今年は3月の気温が高かったので例年よりも開花が進んでいるようです。枯れた沢ではアブラチャンが満開でした。足元にはイワネコノメソウ、ハナネコノメ、コガネネコノメソウ、ユリワサビ、ヤマエンゴサク、タチツボスミレはすでに開花していましたが、ニリンソウはまだつぼみでした。シカの糞が見られる場所でも有毒なハシリドコロは食べられることなく葉の下に花をつけていました。



最初の産卵調査地点である通称カエル池に着きました。しかし水が全くありません。これではヤマアカガエルは産卵できません。池のすぐ横でボーリング調査が行われたとのことなので、水がなくなったのはその影響かもしれません。池の上の穴からハチが飛び立っていきました。黒く大きな姿だったのでクロマルハナバチの女王かもしれません。山の斜面ではアブラチャン、マメザクラ、キブシが見ごろでした。足元ではアカネスミレ、タチツボスミレは開花し、マルバスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、キジムシロは咲き始めでした。

乙女湖手前の標高1260mの谷で自然観察をすることにしました。溪流に下る急斜面ではエイザンスミレの葉がありましたが花はまだのようです。沢まで下りるとコガネネコノメソウ、薬が赤くフレッシュなハナネコノメが春の到来を感じさせてくれました。ニリンソウ、ユリワサビ、ヒメニラ、ヤマエンゴサク、ヒメニラ、レンブクソウ、フデリンドウもまもなく本格的な開花を迎えることでしょう。ここでハシリドコロの戦略について盛り上がりました。なぜ咲き始めは上向きなのか、なぜ花冠内側が黄色なのかなど話は尽きません。観察を終えて道路まで戻ってみると山にはバッコヤナギ、谷にはフサザクラが見ごろを迎えていました。道路わきではアケビのつぼみもありました。



焼山峠を通過して産卵調査地点である木道の湿地帯までできました。ミソサザイのつがいでしょうか、道路沿いの斜面を忙しく動き回っていました。鳥たちも春の準備で忙しいようです。木道下の湿地は水量が少なく長靴を履かなくても沈み込むことなく濡れずに歩くことができました。湿地内の調査地点では5腹の産卵が確認でき、その内産卵間もない弾力のある卵は1腹でした。水たまりには油膜が浮いていましたが、これは人為的なものではなく鉄バクテリアが生成したものであるとのことでした。続いて乙女高原の谷地坊主エリアでも産卵調査を行いました。今回は産卵を確認することはできませんでした。

乙女高原のロッジ前で昼食後、草原を散策することにしました。展望台に向かって斜面を登って行くとキジムシロが咲き始めていました。乙女高原にも遅い春が来たようです。展望台からは残念ながら富士山の姿を見ることはできませんでした。芽出しが始まっている地表でゾロゾロと活発に動いているものはヒメツチハンミョウでしょうか。虫たちも春を待ちわびていたようです。

乙女高原を後にして塩平経由で麓へ下ることにしました。林道ではダンコウバイやマンサクが咲いていました。途中フモトスミレの咲く斜面に立ち寄りしました。ヒナスミレは咲いていましたがフモトスミレは葉ばかりでした。時期的に早いのかなとあきらめていたところ、最後に開花間もない株を見つけることができうれしくなりました。

自然観察を通じ乙女高原でも春の到来を感じることができ有意義な一日になりました。



## 春は足元から

4月25日 記事:植原 彰

林道ではクロモジ、ツクバネウツギの花が咲き、アオゲラやイカル、そして夏鳥のツツドリやオオルリの声を聞きました。「カエル池」は完全に干上がっていました。産卵の気配はまったくありません。すぐ近くで上向きに咲いているスミレの花を見つけました。スミレの花はどれも横向きまたは下向きに咲きますが、上を向いているのです。タチツボスミレはタチツボスミレです。名前が付いていて、ソラムキタチツボスミレというそうです。マルバスミレやアカネスミレが咲いているのを見ました。

林道を進むと、今度はミツバツツジの紫っぽいピンクやイタヤカエデの明るい黄緑色の花が迎えてくれました。ハウチワカエデの赤い花も咲いていました。カエデたちの花って個性があって、結構好きです。

焼山ではミヤマスミレの花が満開でした。群れて咲いているので、とってもきれいです(今、乙女高原ファンクラブのトップページの写真になっています)。ヒメイチゲも小さくて白い花がたくさん群れていて、じゅうたんのようです。おそらく、来週にはもう花は終わっていることでしょう。アケボノスミレやヒナスミレも咲いて

います。まさに「春は足元から」です。

湿地ではクリンキフデやサンリンソウが咲き始めていました。湿地の水たまりは鉄バクテリアの繁殖のためか、鏡のように太陽の光をキラキラと反射していました。新たなヤマアカガエルの産卵はありません。「梨高湿地」で前週に確認したカエル卵ですが、水温が低いせい、あまり発生が進んでいませんでした。手を入れてみると、手を切るような冷たさです。

いろいろ寄り道・道草していたら、簡単にお昼を過ぎてしまいました。ロッジのベンチでお昼を食べ、草原を歩きました。森のコースではエイザンスミレの蕾が膨らんでいました。草原上部ではアカネスミレの花が咲いていました。タチツボスミレもです。草原ではキジムシロの黄色い花がかわいく咲いていました。フデリンドウの花はちょうどほころびかけたところです。外来種であるメマツヨイグサのロゼットが起き上がり始めていました。

帰りに、なんとカモシカの姿を見ました。こちらの方をじっと観て、しばらく動きません。この間の長さがシカと違うところです。「ファイナル・アンサー??」と聞かれているようでした。

いよいよ乙女高原周辺の林道は、冬の通行止めが解除されました。コロナ禍の中ですが、野外を身内と一緒に歩くのであればマスクは必要ないでしょう。たくさんのスマレが見られる乙女高原に、少人数でおいでください。

---

## ♪ サクラスマレがいっぱい ♪ 5月23日 記事:依田 昇 ～ 2年ぶりに乙女高原を訪れたスマレ講師の依田さんからの記事です ～

前週16日の遊歩道づくりとスマレ観察会は雨で中止となりました。それでも雨の中を遊歩道づくりに参加された方がおり、この日はその残りの遊歩道づくりとスマレ観察会に決まりました。遊歩道づくりが10時ころ終了したため、10時半より昼食までと午後1時よりのスマレ観察会となりました。参加者は16名。

井上さんを先頭に森の道を歩き始めるとミツバツチグリ、キジムシロが目に入りました。サクラスマレも顔を出し始めました。花は少し小さいもののかなりの数が迎えてくれました。この道の中ほどはエイザンスミレが多く咲きますが、今年は花が見当たりません。もう夏葉になりかけた株も含め、全体に小さな株ばかりでした。この周辺でマイヅルソウの大群落に、久々にはシロバナエンレイソウの群落を目にし、うれしいながら、驚いています。高原も少し変化していくのかと思い、タチツボスミレ、アケボノスミレ、シロバナエゾノタチツボスミレも数は少ないながら見ることができました。

ヨモギ頭もスマレはほとんど終わっており、スマレ(マンジュリカ)が数株確認できました。

昼食後、下の駐車場へ移動。たくましい谷地坊主を見ながら観察を始めました。湿地に近いので、ニョイスミレ(ツボスミレ)が足元に咲いていました。沢に咲き始めたばかりのクリンソウが見つかりました。小さな株もたくさんあり、今後に期待できそうです。

この道周辺もサクラスマレがたくさん咲いていました。大きく整った花が草原より多く見られました。今年も数は少ないですが、シロバナサクラスマレを見ることができました。「幸せいっぱい」でした。2年前には他の所でも見ることができました。来年以降のお楽しみです。

時間もスマレの数も少ない観察会で残念でしたが、今年の観察会を終了することにしました。新型コロナウイルス感染症拡大がおさまらず、乙女高原に大勢で集まれるようお願いいたします。いつ来てもすばらしい乙女高原でした。



---

## スマレの他にもいろいろ見たよ 5月23日 記事:植原 彰

この日のスマレ観察会にはコケに詳しい塚田さんも一緒でした。「この緑色のもの、茶色く枯れていそうなものと同じ種類のコケです。スギゴケの仲間です。茶色くなっているのに、水をかけると…」と、スプレー瓶から水を吹きかけると、あら不思議。みるみるうちに、茶色のコケが鮮やかな緑色になりました。

午後の部は、谷地坊主を観察することから始めました。ロータリークラブで作っていただいた看板を見ながら、その成り立ちを説明しました。今、谷地坊主は、頭のてっぺんから新しい緑の髪の毛がポツポツと生え始めたところで、とてもかわいいです。

オオミズアオという大型のガもいました。水色で、翅にアゲハチョウのようなしっぽがついている、とってもエレガントなガです。触覚が葉っぱみたいです。こんなに大きな触覚を持っているのはオスのガ。大きな触覚でメスの匂いをかぎ取ります。

湿地をぐるっと一回りし、草原に戻りました。草原の中にお星様がポツポツと光つ



ているように見えるフデリンドウの花を見つけたかったからです。ところが…ない、みつからない！ ようやく見つけることができましたが、見ると、花が閉じています。触ってみると、蕾と違って柔らかいので、一度咲いて閉じた花です。リンドウの仲間は日中咲いた花が閉じて、また翌日咲きます。一度見つけることができると、どんどん見つかるようになります。小学生の男の子、フデリンドウを見つかるのが早いこと早いこと!!

ここで面白いものを見つけました。生まれたばかりのクモの赤ちゃんです。たまごを固めて産んだのでしょう。クモの赤ちゃんもかたまっています。しかも、足を折りたたんで、じっとしています。小さめのビーズが集まって、オレンジ色のダイズ大の塊がいくつかあるようにしか見えません。さっきの男の子に、マスクを外して息を吹きかけてもらいました。すると、吹きかけるたびにオレンジ色の塊が解けて、フツフツとクモの赤ちゃんが動き始めました。これぞクモの子を散らす！クモの子ですから、まわりはクモの糸だらけ。男の子は近くにあった枯草をはしのように使ってクモの糸をひっかけ、持ち上げました。そして、一言、「納豆みたい」。確かにクモの糸のところどころにクモの赤ちゃんの小さな粒々が付いているところは、納豆みたいです。うまい表現だなと思いました。

クモの納豆に盛り上がったところで、駐車場まで戻り、今日の観察会を終了しました。

まだまだ物足りない方々は、帰る途中、車を止めて、いろいろ観察していったようです。



## 新緑と鳥のさえずり・黄色いスミレ

6月5日 記事：井上敬子

～ 黄色いスミレ観察ハイキング ～

6月の観察交流会は乙女高原を離れ、大弛峠へ向かう途中の鶏冠山西林道を歩いて、黄色いスミレ、キバナノコマノツメの観察です。牧丘の道の駅に集まったのは13名。初めて参加される方も何人かいらっしゃったので、自己紹介をしてから、各自、車に乗り込み、出発しました。途中でガスってきて、視界が50mくらいになり、これはガスの中を歩かなくてはならないかなと心配しながら登っていくと柳平でガスは晴れてきました。そしてレンゲツツジが鮮やかに咲いています。林道では白い木の花が目につきました。トチノキやガマズミ、アイヅシモツケ、ウワミズザクラなどです。

鶏冠山西林道ゲート前に到着。車を降りると、カッコウやウグイスのさえずりと新緑が初夏を感じさせます。ゲート前にはミヤマハンショウヅルが咲いていました。

ゲートをくぐって、道端のシロバナヘビイチゴや背の高く伸びたセイヨウタンポポを見ながら歩き出すと、大株のミヤマハンショウヅルが花をたくさんつけていて、皆で写真撮影。オオルリやヒガラ、ウグイスなどの鳥のさえずりに耳をかたむけつつ、道端の植物（白花のクリンソウ、ヤマハタザオ、ミヤマハコベ、ミヤマスマレ、ズダヤクシュなど）に足を止めたりしながら、カラマツの植林地やミズナラなどの落葉樹林、モミなどの針葉樹林の中を歩いていきます。青空と木々の新緑がとても美しく、コロナ禍も忘れ、新鮮な空気をたっぷり吸いました。エゾハルゼミも鳴きはじめました。

途中、キシヤヤスデを発見。この虫は落葉や腐植層を食べて土を作り、森を豊かにしてくれます。8年ごとに出現するのですが、昨年秋に乙女高原や、その他いろいろなところでも出現したのを見ました。そして大発生の翌年5、6月頃に交尾のためにもう一度現れると聞いていたのが、ここで見られたのでちょっと嬉しかったです。これから産卵して、新しい世代が土の中で成長し、7年後に現れてくれることでしょう。

金峰山修験道の名残の祠があるちょっと平らになった所で小休止。スミレの葉を食べているヒョウモンチョウの幼虫がいました。黒くて枝分かかれしたトゲトゲがいっぱい。(帰宅後調べたら、ミドリヒョウモンのようなです) 林の中にマムシグサの仲間が5本まとまって咲いています。黄緑色で葉は対生で2本つき、掌状に5裂していて、普通のマムシグサとは違うようです。(家に帰って調べたら、ユモトマムシグサのようでした) 植原さんがマムシグサの仲間の不思議な生態をレクチャーしてくれました。雌雄異株ですが、栄養状態によって性転換することもある、雄株から花粉を運んだ虫は雌株に受精するとそのまま花の中から出られないなど、おもしろいけど、ちょっと怖い。

その先では、メボソムシクイのさえずりも聞こえ、亜高山帯に来たことが感じられます。苔むした斜面にツバメオモト、イワセントウソウ、イチヨウラン、タケシマラン、オサバグサなどの花が咲いていました。今年はイチヨウランやツバメオモトがたくさん見られました。木の間ごしに八ヶ岳や金峰山の五丈岩が見えました。双眼鏡で覗くと金峰山の頂上に人がいるのも見え、盛り上がりました。道端にアミガサタケが数本でているのを見ました。見た目はグロテスクだけど、おいしいのだとか。

昼過ぎにキバナノコマノツメが群生する標高2000m近い溪流に到着。昨年よりも少ないという声もありましたが、たくさん咲いていました。林道の下の方にも咲い



ています。種子が流れて広がっているようです。ここで昼食。雲で富士山は見えませんが、近くの山はよく見えます。今年は春が異常に早く、花なども早く咲いてしまいましたが、この場所も例年より少しだけ季節が早いようです。近くに見える山のダケカンバ、去年は芽吹き前で白い幹が目立ちましたが、今年は新緑でした。ホトトギスやジュウイチの声も聞こえてきました。キバナノコマノツメをアップで、望遠でと、各自思い思いに写真撮影をしたり、眺めたりして、帰路に向かいました。

行きに見た花をもう一度見たりしながら下りました。途中でまだ開いていないミヤマハンショウヅルがあり、丸いつぼみに触ってみると意外と硬く弾力があってびっくり。行きには気づかなかったツリバナの花も。帰り道は長く感じられましたが、3時前にゲートの所に到着し、解散となりました。

気持ちのよい新緑の中、たくさんの鳥のさえずりを聞きながら、いろいろな花やたくさんのキバナノコマノツメ、チョウなどの虫もいくつか見ることができた楽しい観察会でしたが、気になったのは、笹が枯れ始めていること、シカによるモミなどの皮はぎの被害。この先、森はどうなっていくのか、心配です。今後も継続して観察をしていきたいです。

(追記 植原) 帰り道、あまりにもプラスチックゴミが目につくので、ゴミ拾いをしながら歩きました。林業の施業で使ったと思われる赤と青のビニールテープが一番多く、そのほか、食べ物の包装に使われたビニールや空き缶がありました。つぶれたペットボトルも2つ。井上さんも一緒に拾ってくださり、結局、ゴミはレジ袋(この言葉ももうすぐ死語になりそうですね)3袋分になりました。ゴミは1個拾えば、必ず1個自然の中からはなくなります。一番簡単な自然保護活動です。



## 地域生態系における「キーストーン事物」の保全

記事：植原 彰

生態系において、個体数こそ少ないですが、生態系に大きな影響を与えている種をキーストーン種といいます。キーストーンとは要石(かなめいし)のことです。「生態系に大きな影響を与えている」ということは、キーストーン種がいなくなったり減少したりすると、従来の生態系の機能が著しく損なわれるということです。

たとえば乙女高原の草原におけるマルハナバチ類が、乙女高原の自然(生態系)にとってのキーストーン種です。春早くから秋遅くまで連続的に、多くの植物の送粉者となっているので、マルハナバチ類の減少は乙女高原の植物全体に悪影響を及ぼします。乙女高原全体を囲うシカ柵設置のきっかけとなったのも、「マルハナバチ調べ隊」の調査によって、夏季のマルハナバチ類の極端な減少が認められたからです。

キーストーン種と同様、数が少なかったり、面積的には狭かったりしても、地域生態系にとって非常に重要な個体や場所があります。

たとえば、杣口から柳平に向かう県道の途中にあった大きなマメザクラの木です。この木は、県道が琴川を渡る地点(鳥之口橋)から2.5km地点(「が 琴川ダムまで6.6km 標高1085m」看板の崖上)にあったマメザクラの巨木です。名前に「マメ」が付く通り、通常、マメザクラはあまり大きくなることはありませんが、この木は伐り株の直径が14cmという立派な木でした。早春、他の花がほとんど咲いていない時期にたくさんの花を付けるこの木には、たくさんのコマルハナバチの女王が訪れ、盛んに蜜を吸っていました。冬ごもりから覚め、まずこの木で腹ごしらえをしてから、巣を作り、産卵していたのでしょう。たった1本の木ではありますが、地域の生態系や生物多様性にとって、とても重要な木でした。

ところが、2013年4月7日に、この木が伐られていたのを確認しました。林道のガードレールの外側に生えていたので、特に車両の通行に支障があったとは考えにくいのですが、この木だけが伐られていました。この木の周辺には、早春、多くのマルハナバチが訪れ、たくさんの蜜が吸えるような植物は認められませんから、影響はかなり大きかったと考えられます。前述した通り、マルハナバチは多くの植物の送粉者となっていますから、局所的とはいえ、この地の生態系で「マメザクラの伐採→コマルハナバチの減少→マルハナバチ媒花の減少→その植物に依存している生物の減少→…」という現象がドミノ倒しの様に起きていた(いる)可能性があります。

杣口から柳平に向かう県道の途中にある、道脇の池も地域生態系にとって大きな存在でした。私たちが「カエル池」と呼んでいたこの池は、県道が琴川を渡る地点(鳥之口橋)から1.6km地点の北側(登って行って、右側)にある、2m×8mほどの小さな池でした。流れ込む川はないのに、いつ行ってもきれいな水を満々とたたえており、とても不思議でした。おそらく、この池のすぐ地下には不透水層があり、それによ



って、ここに水が集まってきていると考えられました。この池はヤマアカガエルやヒキガエルにとって重要な産卵湿地で、毎春、多くの卵塊を観察することができました。確かにこの周辺に沢は多くありますが、この池のように、ヤマアカガエルやヒキガエルの産卵に適した止水は少なく、カエル池は地域生態系にとって非常に重要な湿地でした。なお、初夏にはここでシュレーゲルアオガエルの鳴き声も聞いております。

2020年8月29日、カエル池のすぐ脇にやぐらが組まれ、ボーリングが行われているのを見ました。同年9月6日にはボーリングは終わっていましたが、その後、カエル池の水が干上がってしまい、以降、水が回復する兆しはありません。今シーズンのカエルの産卵が心配でした。

2021年3月6日には、かつての池の底の部分が泥になっているのを確認しました。岩の隙間からはヤマアカガエルの声が聞こえました。3月27日にはカエルの産卵を確認しました。とはいえ、十分な水分はないので、ゼラチン質がプルプルに膨らまず、ヘドロ状になっていました。卵塊のすぐ脇にはテンの糞が3つあり、テンがカエルの卵を食べたと推測しました。結局、カエル池に産卵場所を依存するヤマアカガエル個体群は今シーズンの繁殖を失敗しました。

池の水が干上がったのは、ボーリングによって地下の不透水層が破られ、水が下層へと漏れてしまったためと考えられます。ボーリングによって、この地域における貴重な止水がなくなってしまう、陸地と湿地を行き来する両生類の生息などに大きな影響を与えてしまいました。

地域生態系のキーストーンとなる事物の損失は、数や面積は少なくとも、地域生態系や生物多様性に与える影響はとて大きくなってしまいます。今後、事業等を行う場合、慎重に配慮していただきたいと思っています。

※この文書を、6月14日付けで峡東林務環境事務所長、県有林課長、治山林道課長、峡東建設事務所長宛に提出しました。

## 【夏の活動予定】

### ◎乙女高原案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。「コロナ禍だけれども、今年は夏の案内活動はあるのかな？」と思われている方がいるかもしれませんが、**3密に気を付けながら実施します**。花盛りの乙女高原で皆さんとお会いすることを楽しみにしています。10時から3時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしいています。是非お声掛けください。

なお、乙女高原案内人でこの活動に賛同してくださる方はぜひご参加ください。1日だけ、半日だけでも結構です。事務局までご一報ください。

### 【夏の案内人活動日】

- ① 7月24日（土）
- ② 7月25日（日）
- ③ 7月31日（土）
- ④ 8月1日（日）
- ⑤ 8月7日（土）
- ⑥ 8月8日（日）



ヨツバヒヨドリとクジャクチョウ



ヒメトラノオとオオマルハナバチ

### ◎第19期マルハナバチ調べ隊

マルハナバチ個体数の動向を知ることは、いわば乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のために大切な活動です。

#### ～盛夏編～

日時：8月7日（土）10：00～14：30頃 雨天中止  
集合：乙女高原グリーンロッジ  
持ち物：弁当・水筒・筆記用具・腕時計・タイマーなど  
時間が分かるもの  
参加費：無料

#### ～初秋編～

日時：9月4日（土）10：00～14：30 ※場所・持ち物などは、盛夏編と同じです。

\*いずれも、屋外での、人と人の距離をとっての活動ですが、念のため、マスクをご持参ください。



ノハラアザミとミヤママルハナバチ



夏でも涼しい乙女高原へお出かけください  
たくさんのお花や虫たちが迎えてくれます



# 乙女高原ファンクラブの事務局だよ

※ML455号まで掲載済

- 今号は、編集長:井上敬子さん、執筆・編集:植原彰さん、井上敬子さん、執筆:渡辺和男さん、依田昇さん、印刷:芳賀月子さん、三枝かめよさん、発送:芳賀月子さん…という協働作業で作られました。皆さん、ご苦労様でした。
- 発送係を募集します** 宅配便で印刷した会報と封筒をお送りするので、詰めて投函する作業です。在宅でできます。

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

### 乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁)草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』→在庫切れ

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



### フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスミレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスミレたちのプロフィールを紹介するとともに、スミレ観察のポイントをていねいに解説しました。

### フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

### フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というフックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ



ホームページ



観察ブログ



活動ブログ



乙女高原後援会  
フェイスブックグループ